

講義名	物流概論/物流システム論				授業形態	
担当教員	李 志明	開講期・曜日・時限		後期 水曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
我々の生活には生鮮食品や家電製品など様々なモノが必要である。畑や工場などで生産されたモノが我々の手に届くまでの過程が物流である。物流は、輸送や保管だけではなく、包装、荷役、流通加工、情報の機能も果たしている。 講義では、流通科学大学の大学生として流通における物流やロジスティクスを学ぶときに、ぜひ知っておいてもらいたい基本的事項を概説する。						
到達目標						
(1) 流通における物流の6つの機能とその役割を理解する。 (2) 企業の物流の仕組みと実務を理解する。 (3) 物流の社会的責任と課題を理解する。						
提出課題						
特になし。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
課題がないため、それに対するフィードバックもない。						
評価の基準						
定期試験100% 授業参加度						
履修にあたっての注意・助言他						
授業中の議論に積極的に参加してほしい。						
教科書						
使用しない。						
参考文献						
,ロジスティクス概論：基礎から学ぶシステムと経営（増補改訂）.				吉瀬 博仁（著）		白桃書房
						978456175225

その他		
教員が制作したレジュメをキャンパスコースにアップロードする。各自、プリントアウトして、関連内容について予習しておく。また、授業内容のすべてがレジュメに記載されているわけではないので、レジュメを持って、授業に必ず出席すること。		
授業計画		
以下のように、15回の授業を計画する。そして、「大学設置基準第21条2」により、各授業回における計4時間の予習・復習が必要である。（ ）の内容を参考に、各自、予習と復習を実施する。		
1. 物流概論の紹介 （物流の定義、輸送の定義、ロジスティクスの定義）		
2. 周りからみえる物流 （コンビニでの取り扱い商品の特徴、自動販売機の特徴、既製服とファストファッションの物流）		
3. シンプルで複雑な物流の概念 （人の流れと物の流れの相違点、商取引の流れと物の流れの相違点）		
4. 物流管理の変遷 （ロジスティクスの概念、SCMの概念）		
5. 物流の6つの機能 （輸送の役割、保管の役割、包装の目的）		
6. 物流を行う荷主と物流事業者 （荷主の定義、輸送事業者の種類）		
7. 企業における物流の位置 （調達物流と社内物流の概念、静脈物流の定義）		
8. 輸送機能と輸送機関の特徴 （輸送の概念、配送の概念、日本の輸送機関別の輸送量）		
9. 保管機能と在庫管理 （在庫の概念、ABC分析の概念）		
10. 付加価値を創出する物流機能 （荷役の概念、流通加工と顧客サービスの関係、包装の目的）		
11. 効率を向上する情報機能 （貨物一致の概念、物質識別技術）		
12. 企業の国際化による物流の変化 （最少費分律の概念、ハブアンドスポークの概念、日本の国際物流の特徴）		
13. 物流システムの土台となる物流インフラ （インフラの定義、物流インフラの種類）		
14. 物流と環境問題 （モーダルシフトの定義、静脈物流の特徴）		
15. まとめと物流の再考察 （自分であらう物流機能、物流の重要性）		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
物流は流通の一部であり、物流の基礎知識を身につけ、流通に関する問題探索と課題提案に貢献できるようにする。また、物流の課題を理解することで、これからの流通の姿の構想に貢献できるようになる。さらには、小売業で必要な物流の機能と実務を理解し、就職の際に即戦力になるため、社会で活躍できるようになる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
各回の授業中に議論する。		
実務経験の有無及び活用		
実務経験あり 物流データ分析や物流政策立案の支援経験がある。民間企業や政府の考え方と仕事のやり方などを伝え、より現実感のある授業を提供する。		
備考		